

シラヒゲウニ種苗供給事業

眞鍋美幸，松元則男，今吉雄二，今村昭則

【目的】

シラヒゲウニ放流効果実証化の取り組みに供する放流種苗を生産・供給する。

【結果】

1) 種苗生産実績

平成22年11月採卵群から，殻径5.33～45.98mm，平均殻径26.32mmの稚ウニを73,300個生産し，うち73,200個を平成23年4月26日～7月15日に奄美海域の各地先及び三島村地先に放流した。残り100個は餌料試験に供した（表1）。

表1 種苗生産実績

目的・用途	出荷箇所	殻径（mm）	出荷個数（個）	出荷時期
離島再生交付金事業等	1 1カ所	27.17	64,000	4/26～7/15
振興局・支庁試験放流	2カ所	20.56	9,200	6/6～6/23
水技センター餌料試験用	-	13.21	100	-
合計	平均	26.32	73,300	
	最大	45.98		
	最小	5.33		

2) 種苗生産

11月採卵（平成23年11月14日～12月16日採苗）

- ・幼生は126万個（25.2万個×1tパンライト水槽5槽）收容した。
- ・市販の濃縮した *Chaetoseris gracilis*（以下キートセラス）を給餌した。
- ・5槽とも，自然減少，奇形等が無く，成長が良かったため，日令23で間引きしたが，その後日令28前後から1槽で奇形，小型が多く見られるようになったため廃棄し，残り4槽で採苗した。
- ・日令32で53.9万個を3.3t水槽3基，4t水槽2基に採苗し，波板飼育を開始した。

2月採卵（平成24年2月6日～3月8日採苗）

- ・幼生は75万個（25万個×1tパンライト水槽3槽）收容した。
- ・水槽NO.1，NO.2はキートセラス及び培養した *Phaeodactylum tricornutum*（以下フェオダクチラム）を1:1の割合で給餌した。
- ・水槽NO.3はキートセラスのみを給餌した。
- ・水槽NO.1，NO.2は日令21前後から，数の減少，奇形等が増加した。NO.3は順調だった事から，フェオダクチラムの培養不調が原因と考えられた。
- ・日令31で31.2万個を3.3t水槽1基，4t水槽1基に採苗し，波板飼育を開始した。